

---

# 研究支援としてオープンアクセスポリシー 策定の意味するところ

引原隆士

京都大学図書館機構長・附属図書館長

京都大学工学研究科



# 講演の要点

---

- オープンアクセスポリシー策定への経緯
- 研究者とオープンアクセス
- 研究支援としてオープンアクセス
- 研究者コミュニティとオープンアクセス
- 研究戦略としてのオープンアクセス
- 図書館にとってのオープンアクセス



# 大学図書館の状況

by 竹内比呂也 先生



2004年

1970年代 「紙の図書館」  
1980年代 「機械化図書館」  
～ 電子図書館

ナショナル・リソースとしての維持の破綻

2000年代 「電子ジャーナル」

---

2010年代 大きな価値の変化

価格, 保存スペース, 流通等

資料が**資源**から**負債**へ

# 大学図書館の状況

by 土屋 俊 先生



2004年

大学教授：西洋知識の摂取者たるフリーライダー  
図書館：教員にとって西洋文明への旬な窓



大学教授～特定の**サブジェクトライブラリアン化**

2000年代 大学院重点化：大学，大学院の切り分け

大学図書館：大学の教育，研究を支える組織分離が**未完成**

2010年代 大学改革＝教育，研究の切り分け

大学教員～教育者

図書館 ～教育スペース

～研究者

～研究支援機関

**組織分離**



# 研究者のグローバルなあり方の変化

## 研究者個人が要求されること：

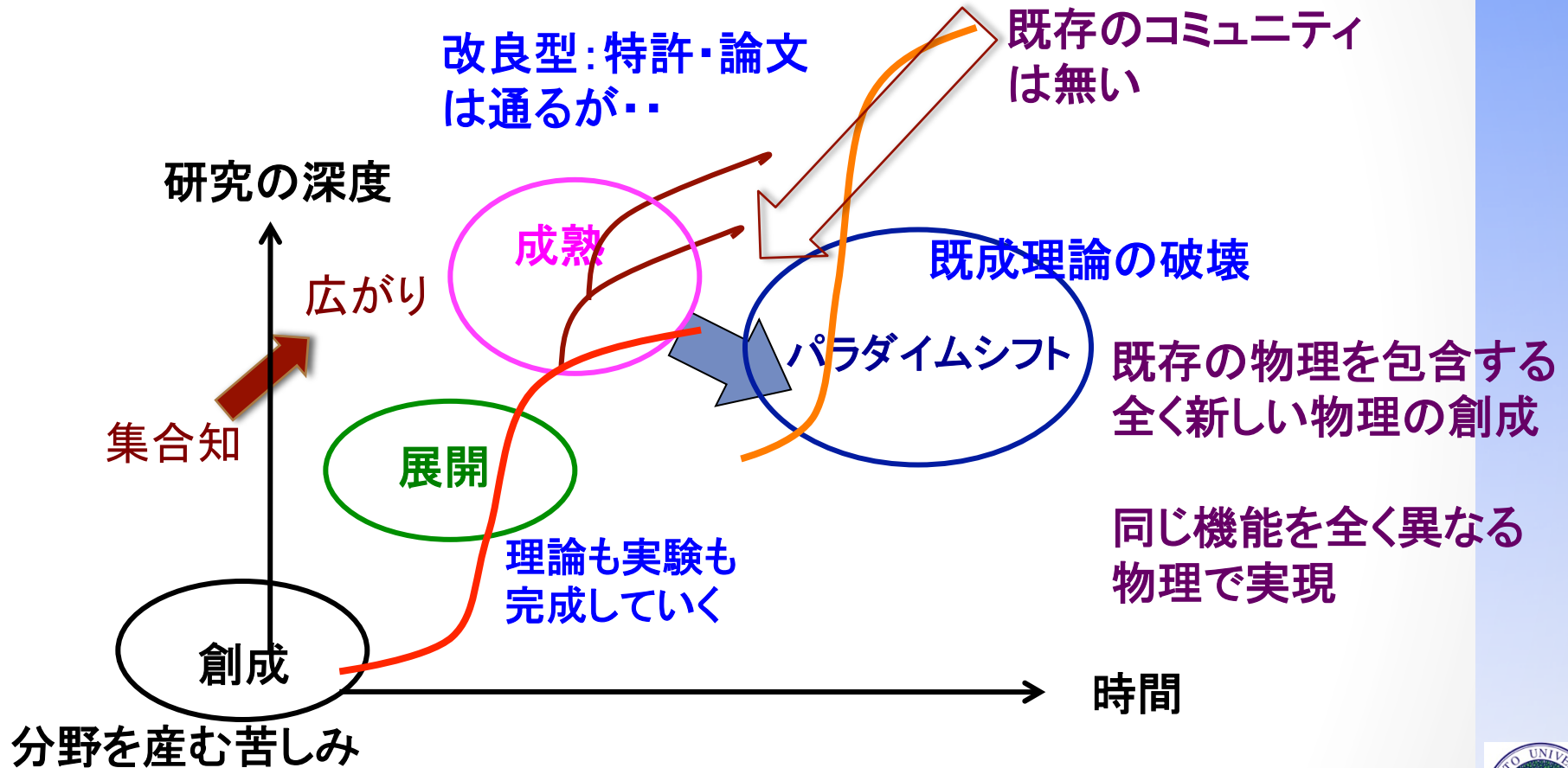
日本の研究者は、欧米の研究者から多くを学び科学技術を独自のレベルまで発展させた。次は、君たちが開発国の研究者を受け入れ、学んだことを基に、研究を基礎から指導することが課せられた義務だ。 (by 在外研究時の指導教授の言葉 1993-1994)

## 欠けている点

- ✓ オリジナリティを崇拝する文化の醸成
- ✓ フェアという感覚(先駆者への敬意)
- ✓ 欧米の研究環境との相違
- ✓ 人を受け入れ、育てることの意味(無給作業者ではない)
- ✓ 日本で研究したことへの価値と保証(普遍性)
- ✓ 世界で研究環境を構築するサポート



# 研究者が本来目指すべきこと



視点

IF, Metricの評価対象数値はどこ?  
研究費の助成基準?  
新しい組織の設立タイミング?

# 京都大学内部コミュニティの実態

Faculties : 3193

Social Science & Humanities : 12.6 %

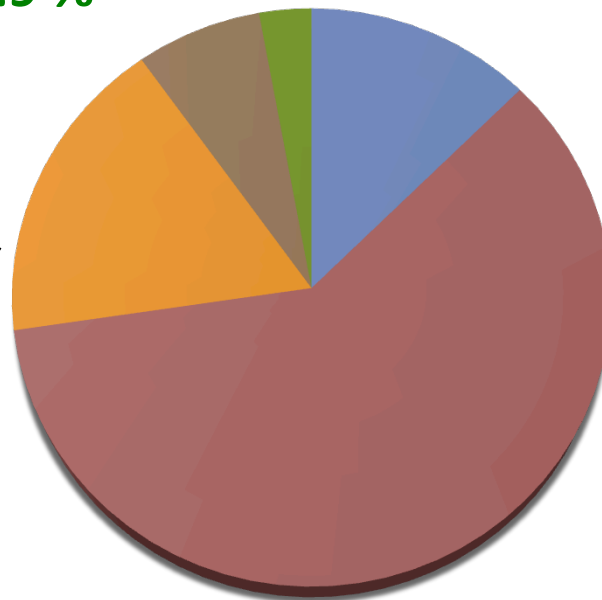
Natural Sciences : 60 %

Medial & Pharmacy : 17.4 %

Interdisciplinary : 7 %

Service department 2.9 %

} 84.7%



■ Social Science & Humanities

■ Natural Science

■ Medical & Pharmacy

■ Interdisciplinary

■ Service

図書館のサービスは  
圧倒的数の理系の  
研究支援抜きに  
語れない！



# オープンアクセスポリシー策定への流れ

---

## <学内>

- 学位論文の保存と複写(1997年～)
- 学位論文の電子公開へのアプローチ(2006年～)
- 電子ジャーナルパッケージ運用のあり方(2010年～)
- 電子ジャーナル価格の高騰(2011年～)

## <学外>

- 学位論文の電子公開義務化(2013)
- 文部科学省ジャーナル問題に関する検討会委員(2014～)
- RU11による海外の電子ジャーナル状況の視察指示(2014)





# オープンアクセスポリシー策定とは (図書館機構長として)



ミケランジェロ・ピエタ(未完)@サン・ピエトロ大聖堂  
個人撮影

～夏目漱石 夢十夜 第六話 改

岩盤(大学図書館)の中に  
埋もれたもの  
を外に出しただけ

まるで土の中から石を  
掘り出すようなものだから  
決してまちがうことはない

課題の見出しとその後

# 客觀的指標(0)



Visualisations Home

ROARMAP data

Other data

FAQs

PASTEUR4OA Website

## How many policies comply with Horizon2020 requirements?

### Overview

Horizon2020 has very specific requirements related to open access. The [Multi-beneficiary General Model Grant Agreement, Version 1.0 11 December 2013](#) states that each beneficiary must ensure open access (free of charge, online access for any user) to all peer-reviewed scientific publications relating to its results. In particular, it must:

1. as soon as possible and at the latest on publication, deposit a machine-readable electronic copy of the published version or final peer-reviewed manuscript accepted for publication in a repository for scientific publications; Moreover, the beneficiary must aim to deposit at the same time the research data needed to validate the results presented in the deposited scientific publications.
2. ensure open access to the deposited publication —via the repository —at the latest:
  - o on publication, if an electronic version is available for free via the publisher, or
  - o within six months of publication (twelve months for publications in the social sciences and humanities) in any other case.
3. ensure open access — via the repository — to the bibliographic metadata that identify the deposited publication.

### Horizon2020 Open Access Compliance



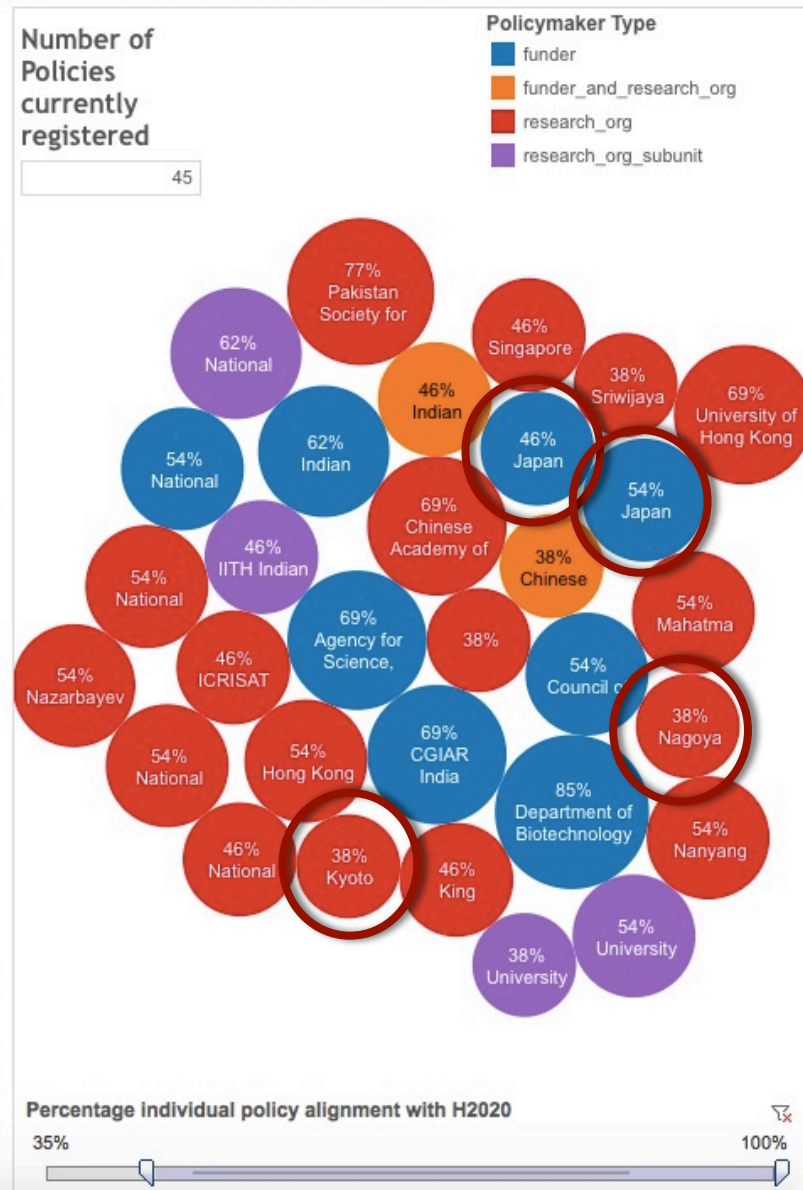
# 客観的指標 (1)

## Alignment to the Horizon 2020 Open Access Policy

Average alignment to H2020 by country



Alignment to H2020 by individual policy

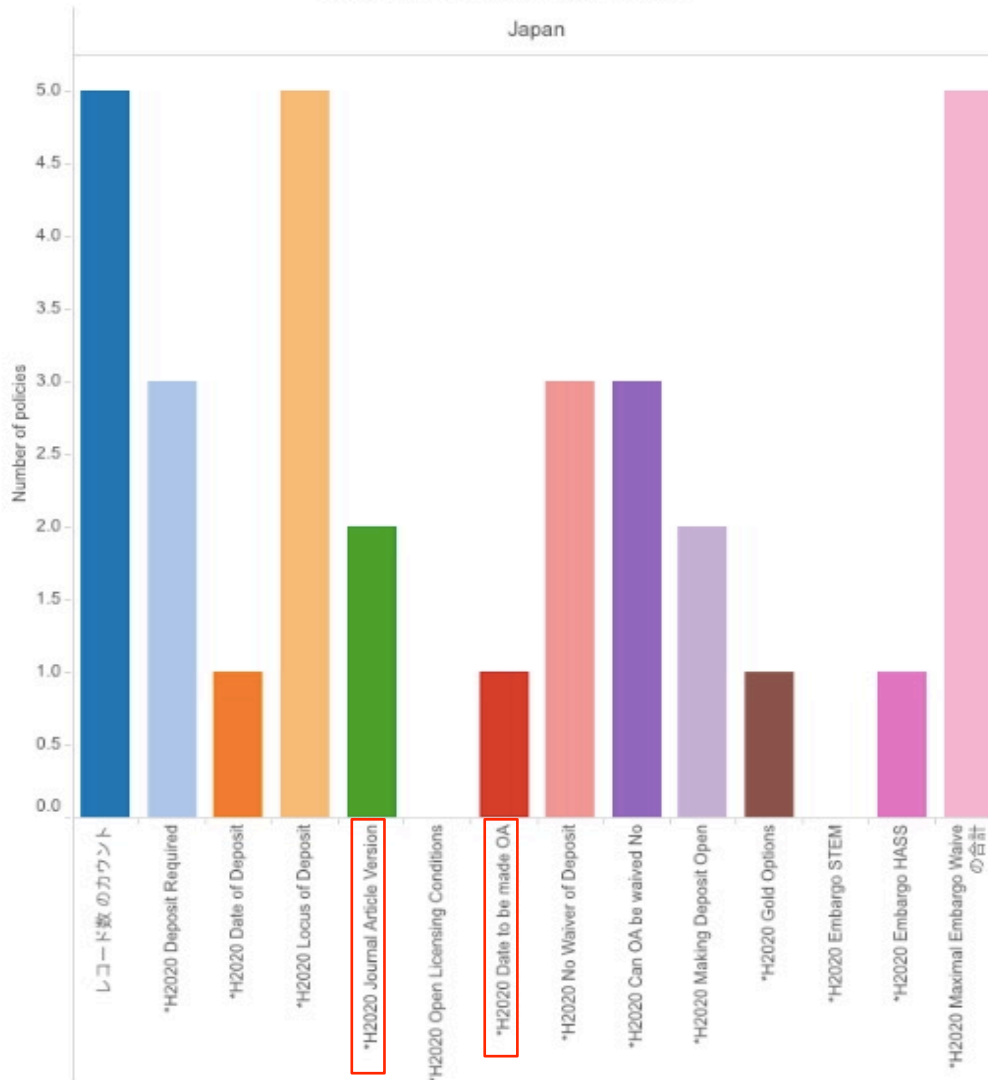




# Individual elements of Horizon 2020

On [Tableau](#):

Individual Elements of Horizon 2020: Number of policies which align to each section of the H2020 OA policy



# 客観的指標 (2)

Choose Country:

Japan

Average policy alignment to H2020 across all elements

Hokkaido University	31%
Japan Ministry of Education, Culture, Sports, S..	46%
Japan Ministry of Education, Culture, Sports, S..	54%
Kyoto University	38%
Nagoya Institute of Technology (NIT)	38%

Current registered policies:

Japan 5



# Where is our country ? (2015)

<http://www.pasteur4oa.eu>

## Number of Policies by Country



1	United States	128
2	United Kingdom	114
3	Italy	48
4	Australia	33
5	Turkey	30
6	Finland	28
7	Canada	27
8	Spain	27
9	Germany	23
10	Portugal	21
11	France	18
12	Belgium	17
13	Brazil	16
14	India	14
15	Sweden	11
16	Ukraine	11
17	Norway	9
18	Denmark	
19	Indonesia	
20	Ireland	

21	Netherlands	8
22	Switzerland	8
23	South Africa	7
24	Austria	6
25	Lithuania	6
26	New Zealand	6
27	Peru	6
28	Japan	5
29	Kenya	5
30	Argentina	4
31	China	4
32	Iceland	4
33	Russia	4
34	Slovenia	4
35	Venezuela	4
36	Colombia	3
37	Czech Republic	3

41	Mexico	3
42	Singapore	3
43	Algeria	2
44	Belarus	2
45	Croatia	2
46	Greece	2
47	Poland	2
48	Zimbabwe	2
49	Azerbaijan	1
50	Bolivia	1
51	Ghana	1
52	Latvia	1
53	Luxembourg	1
54	Nigeria	1
55	Pakistan	1
56	Saudi Arabia	1

+4

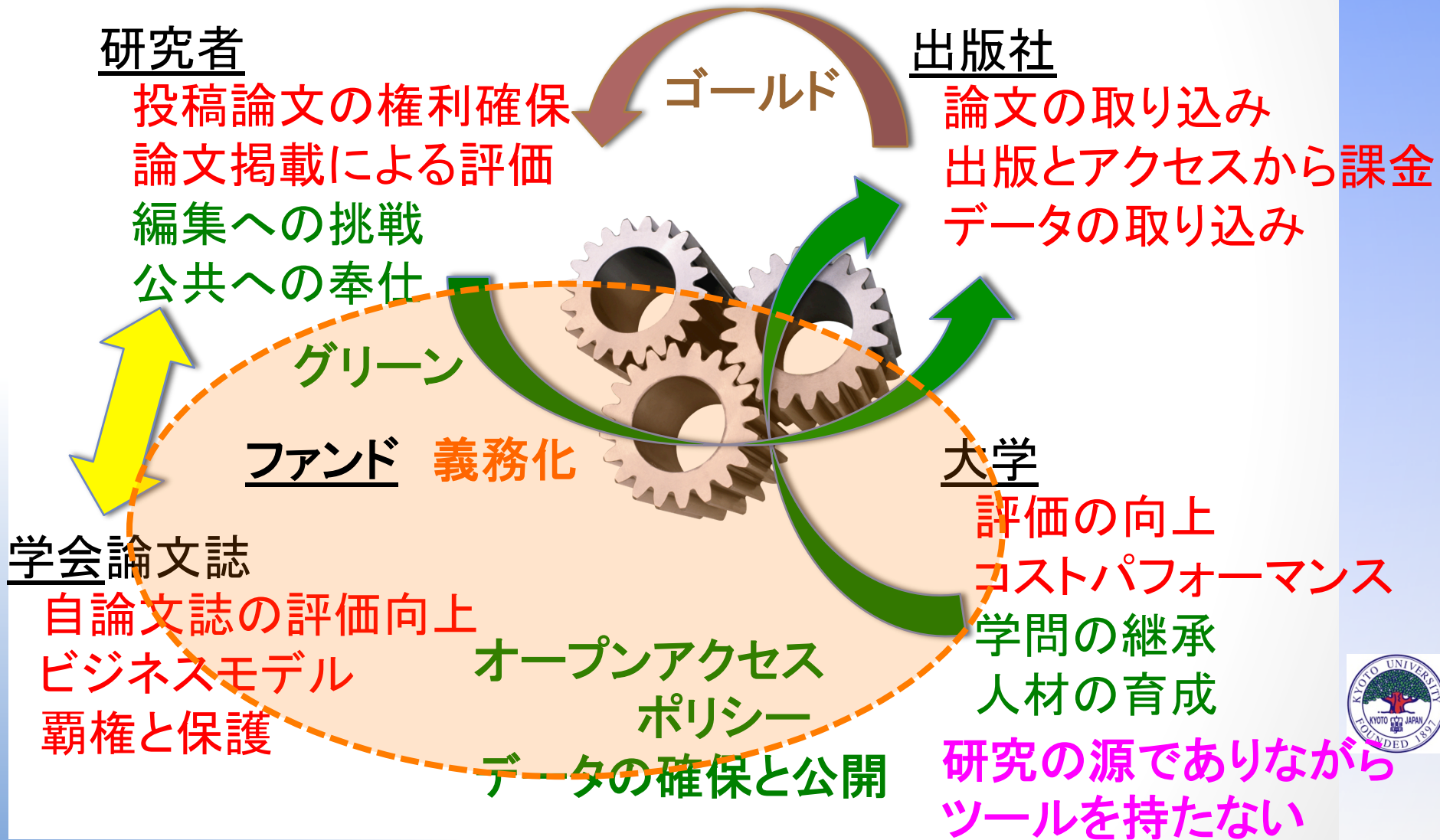
必要な政策が提示されていない

Hokkaido University (2007), Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology  
Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (01 Apr 2013)  
Nagoya Institute of Technology (NIT)(2013), Kyoto University (2015), **International Research Center  
for Japanese Studies**(2015), **Tsukuba University** (2015), **Kyusyu University**(2016), **Tokushima  
University**(2016)



2016

# ステークホルダーの利害関係の中で



# 研究者のオープンアクセスへの認識

- ✓ 全く知らないレベル
- ✓ 意識していないレベル
- ✓ 論文が無料公開されるという理解レベル
- ✓ 自分の論文投稿の経費が気になるレベル
- ✓ 電子ジャーナル経費が気になるレベル
- ✓ 論文投稿への出版費用に反発するレベル
- ✓ リポジトリで積極的に公開するレベル
- ✓ 研究助成から要求されて行動するレベル
- ✓ 出版社（ゴールド）で積極的に公開するレベル
- ✓ オープンアクセスに積極的に関与するレベル
- ✓ オープンアクセス大反対のレベル



**根本として研究者は自己保身的で、ご都合主義  
自分の仕事は知られたいが雑用はしたくない**

# 研究者@コミュニティ：論文誌

- 同人誌化する学会論文
- Peer-Review という**権威**(信頼性/公正性/有効性)
- 多量の低レベル論文投稿による**編集プロセスの崩壊**
- 査読者の**査読能力の欠如**
- 編集委員の拡大による論文へのバイパスの発生
- 編集委員による**不透明**な論文処理（操作）
- 自論文誌からの**引用論文の強制**
- **偏差値化**したImpact Factor
- 論文誌全体のレベル低下
- Open Peer Review と arXiv



参考：佐藤翔：査読をめぐる新たな問題，CA1829

研究者は論文誌以外にコミュニティに何を求めているか





# 研究者@コミュニティ (オープン化の対象)

研究分野毎にコミュニティ

論文への認識の差異

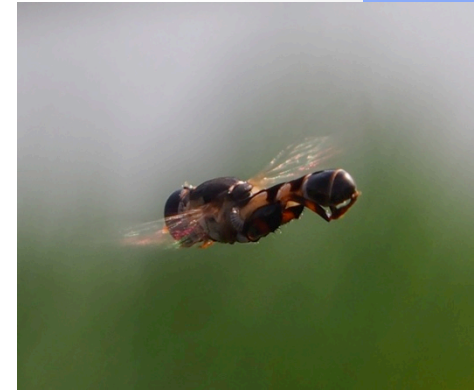
- Preprint server (arXiv.org) (Physics, Math, Informatics)  
Math: Index未登録への焦燥の欠如  
Informatics: Conference Proceedings の重要性
- 数学：図書的重要性
- 工学： Physics, Chemistry, Informatics  
に多くがカテゴライズされている
- 建築：作品図面，写真への著作権
- ジオサイエンス：データの重要性



図書館としてオープンアクセスに  
本当に関わる意識があるかが問われないまま...

# ステークホルダーに対する オープンアクセス機能の可能性

- ✓ 学術情報の生産者，利用者，機関の関係  
コミュニティの再構築
- ✓ 流通システムによる経済論理の排除  
独自の学術情報流通システム
- ✓ 種々の学術情報の可視化  
これからの研究者の研究レベルの底上げ
- ✓ 非英語圏（日本語）の学術情報の尊重  
多言語システムの確立と質の確保
- ✓ グローバルな研究課題への転換（分野横断）  
論文の数，indexなどの無意味な評価の排除



# オープン化の戦略は . . . . (一般的な構図)

1<sup>st</sup> 学位論文の電子公開

**Repository**

2<sup>nd</sup> オープンアクセスポリシー策定

**Original submission**

3<sup>rd</sup> オープンデータの模索

**Data archive**

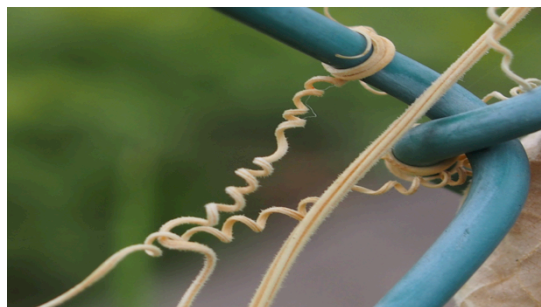
4<sup>th</sup> コミュニティの再構築

**Direct and indirect  
connections through  
bibliography and  
program**

分野内

大学間

学問領域を超えて



# オープンアクセスによる可能性 (様々な立場)

---

## 研究者にとって：

ステークホルダのエビデンス作業からの開放  
論文が担保する研究データの透明化

## 大学教員にとって：

研究成果のオープン化による後進の指導  
(フェアネス, サービス, クリエイティブ)

## 大学にとって：

オープンアクセスによる多様な価値観の共存の許容

## コミュニティにとって：

学会に変わる新しいコミュニティの構築



# なぜオープンアクセスを ・ ・ （研究者として一言）

外圧に対して、基礎研究を重視し、他者の研究のプライオリティを尊重し、止揚する研究（コミュニティ）の姿を守りたい。（研究の底が浅い！）

ポリシー策定を基にして、これからの研究者を育てたい。（オープンアクセスは進むが、各大学（図書館）が自らその過程で研究者を育てるアイデアを持っていない！）

オープンデータ・オープンサイエンスが流行っているからって、目指すゴールがあるのか？  
（時代遅れの輸入概念に頼るな！）



# 一研究者がオープンアクセスを介して 希望したこと

## <図書館の機能への希望>

- ✓ シンパの研究者・図書館員の宝箱からの転換
- ✓ 保管資料から資源活用への転換
- ✓ 外部情報収集の窓から内部情報の扉への転換
- ✓ 研究の生命線となる創造のためのゆりかご機能

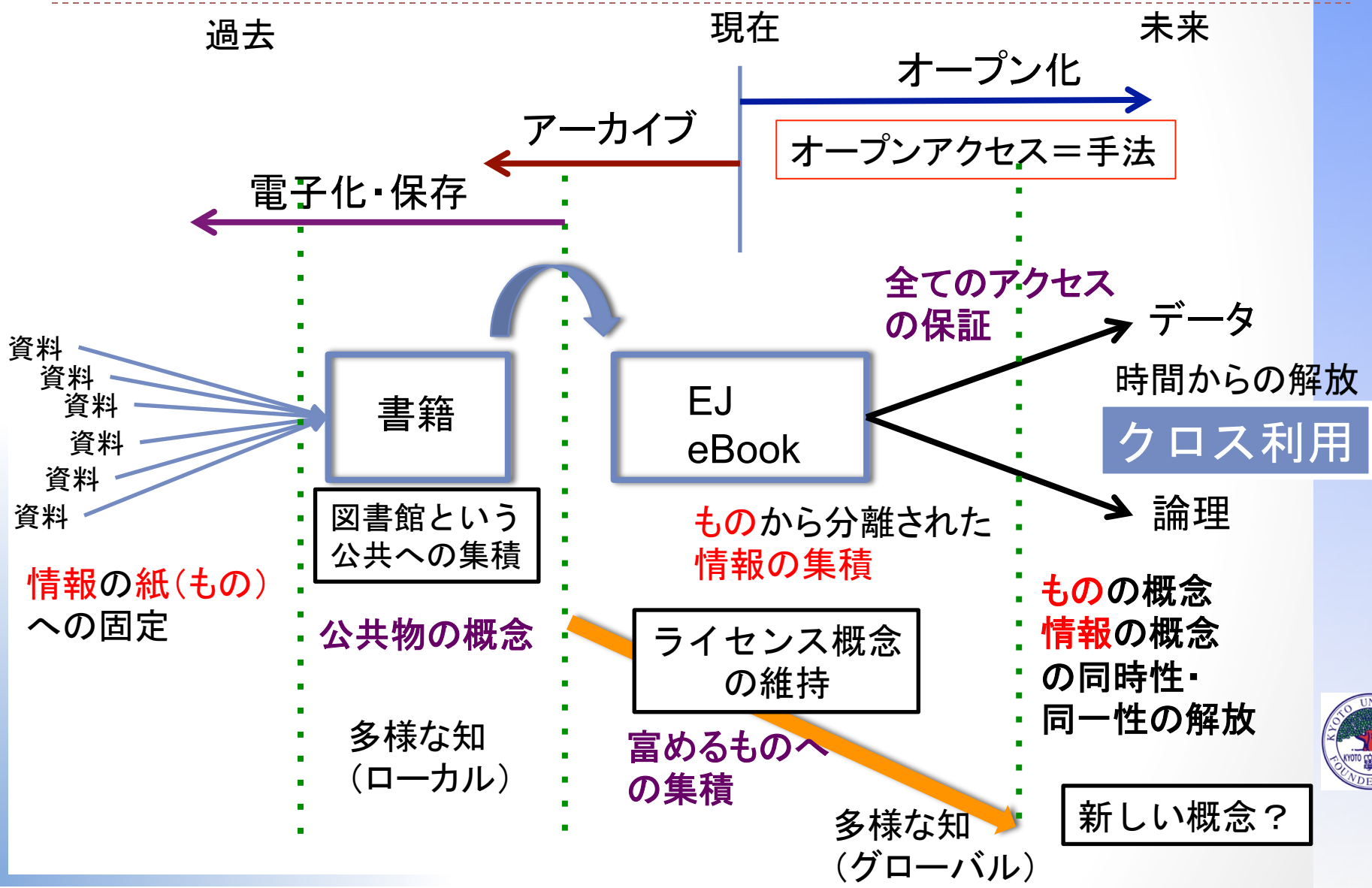
## <図書館という場への希望>

- ✓ 教育を経た研究への参入支援(←OJT)
- ✓ 古典への平易なアプローチと横展開支援
- ✓ デジタル化と標準化による研究の普遍化

## <図書館員の立ち位置への希望>

- ✓ サブジェクトライブラリアン(研究者)指向の脱却
- ✓ 学術ネットワークのオペレータ, キュレーター
- ✓ 新しい形態の学術情報のマッピングと開拓

# 学術情報の状況の把握（再考）



Open Data, Open Science  
の前にやる必要があります！

